

キャリア教育の実践

東北福祉大学教育学部
教授 長田 徹



独立行政法人教職員支援機構

目次

1 キャリア教育のファーストステージ

1 - 1 キャリア教育の草創（期）

1 - 2 平成28年中央教育審議会 キャリア教育の課題

2 キャリア教育のセカンドステージ

（平成29年・30年告示学習指導要領におけるキャリア教育）

2 - 1 実践のポイント“学ぶことと自己の将来をつなぐ”

2 - 2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

2 - 3 実践のポイント“特別活動を要に各教科等の特質に応じる”

2 - 4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

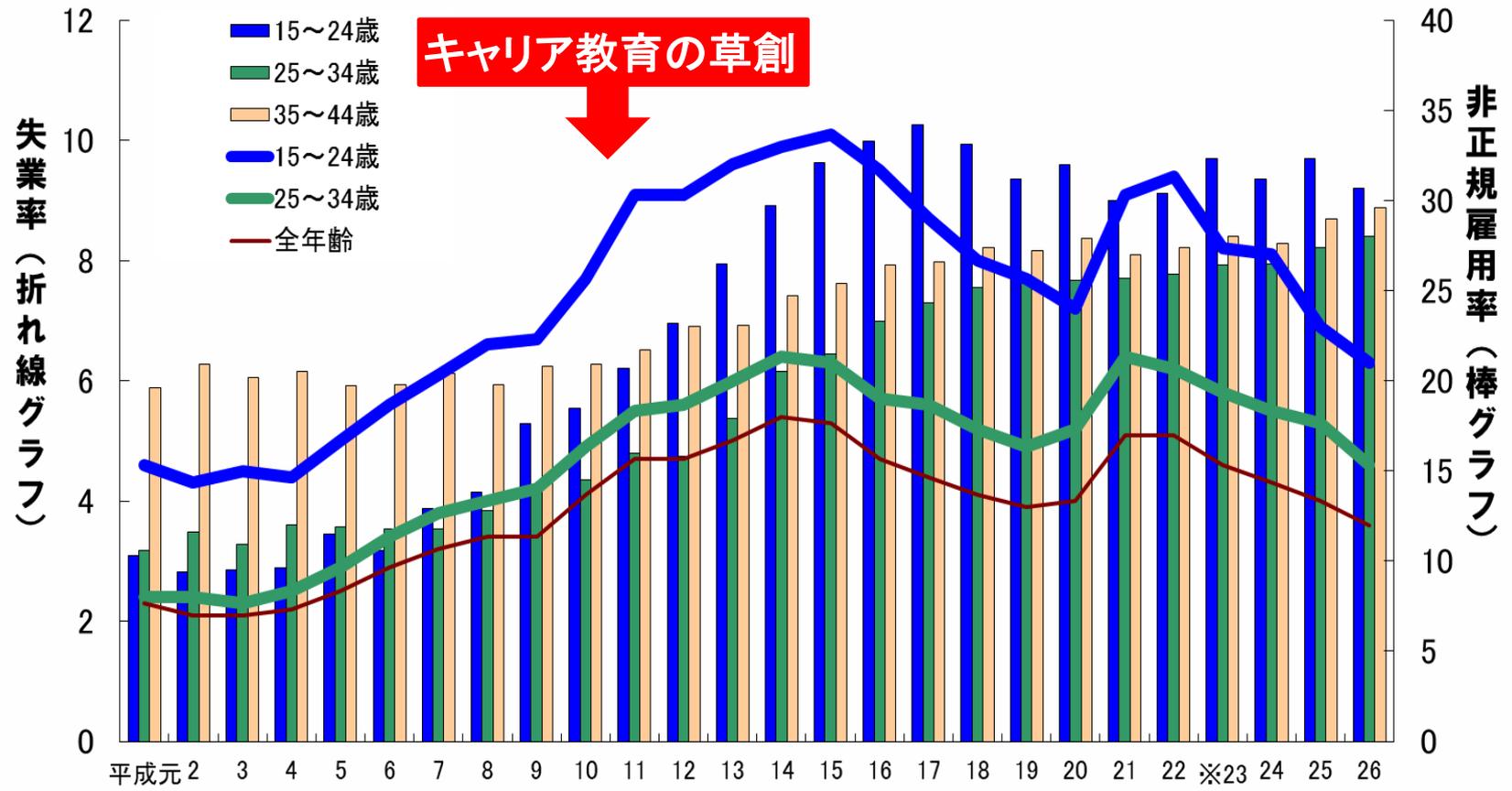
3 キャリア教育のこれから

（第4期教育振興基本計画におけるキャリア教育）

（参考）

1-1 キャリア教育の草創

(当時の) 若者の失業率・非正規雇用率



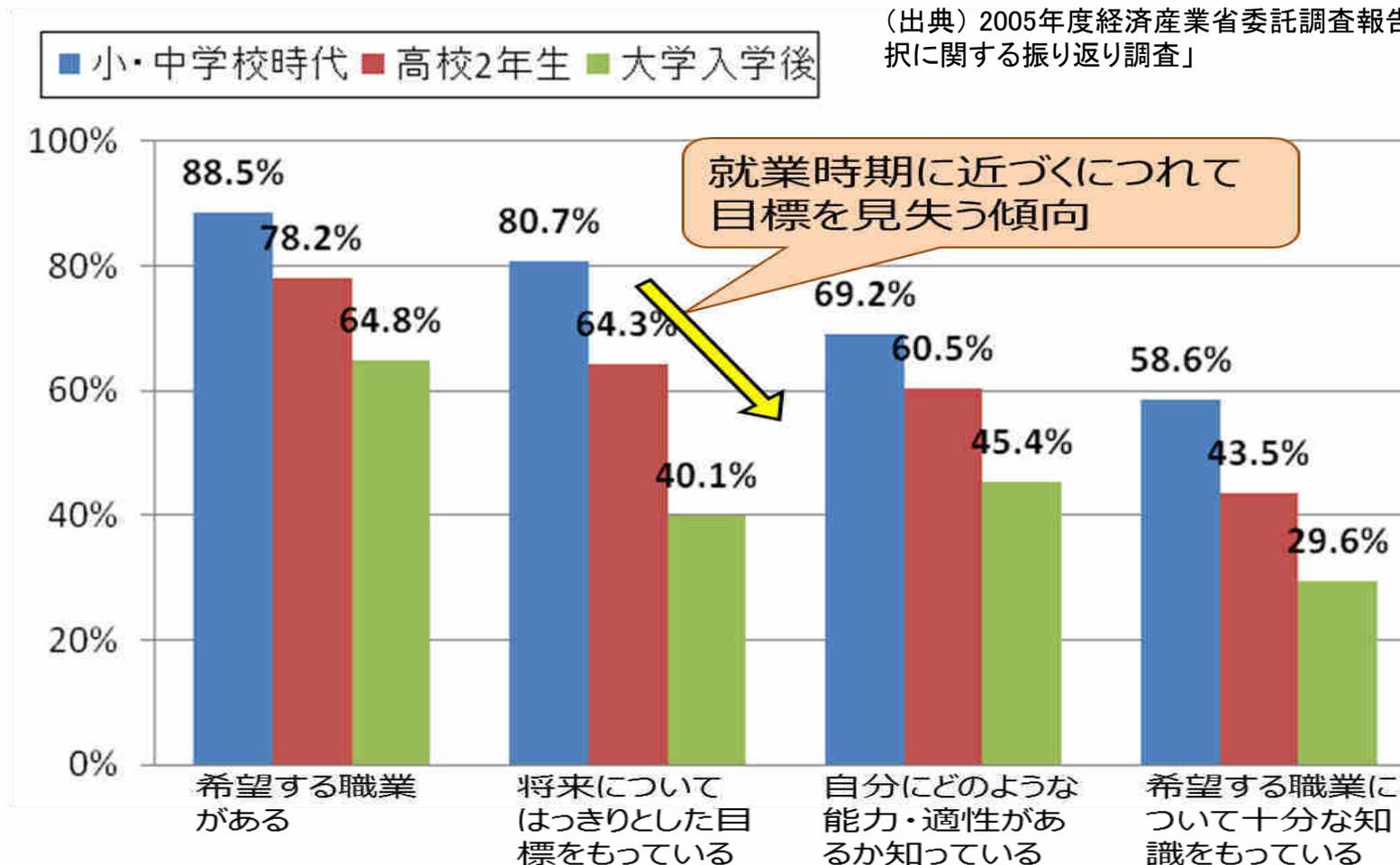
※ 完全失業率は、年平均。 ※ 非正規雇用率は、非農林雇用者(役員を除く)に占める割合。なお、15~24歳では在学中の者を除く。
 ※ 平成23年の完全失業率は、東日本大震災により調査が困難となった3月から8月までを補完推計した参考値。
 平成23年の非正規雇用率の数値は補完的に推計した値(2010年国勢調査基準)。

資料：失業率は、総務省統計局「労働力調査」 非正規雇用率は、総務省統計局「労働力調査特別調査」(~平成13年)及び「労働力調査(詳細集計)」(平成14年~)

1-1 キャリア教育の草創期

(当時の) 若者の就業時期の傾向

(出典) 2005年度経済産業省委託調査報告書「進路選択に関する振り返り調査」

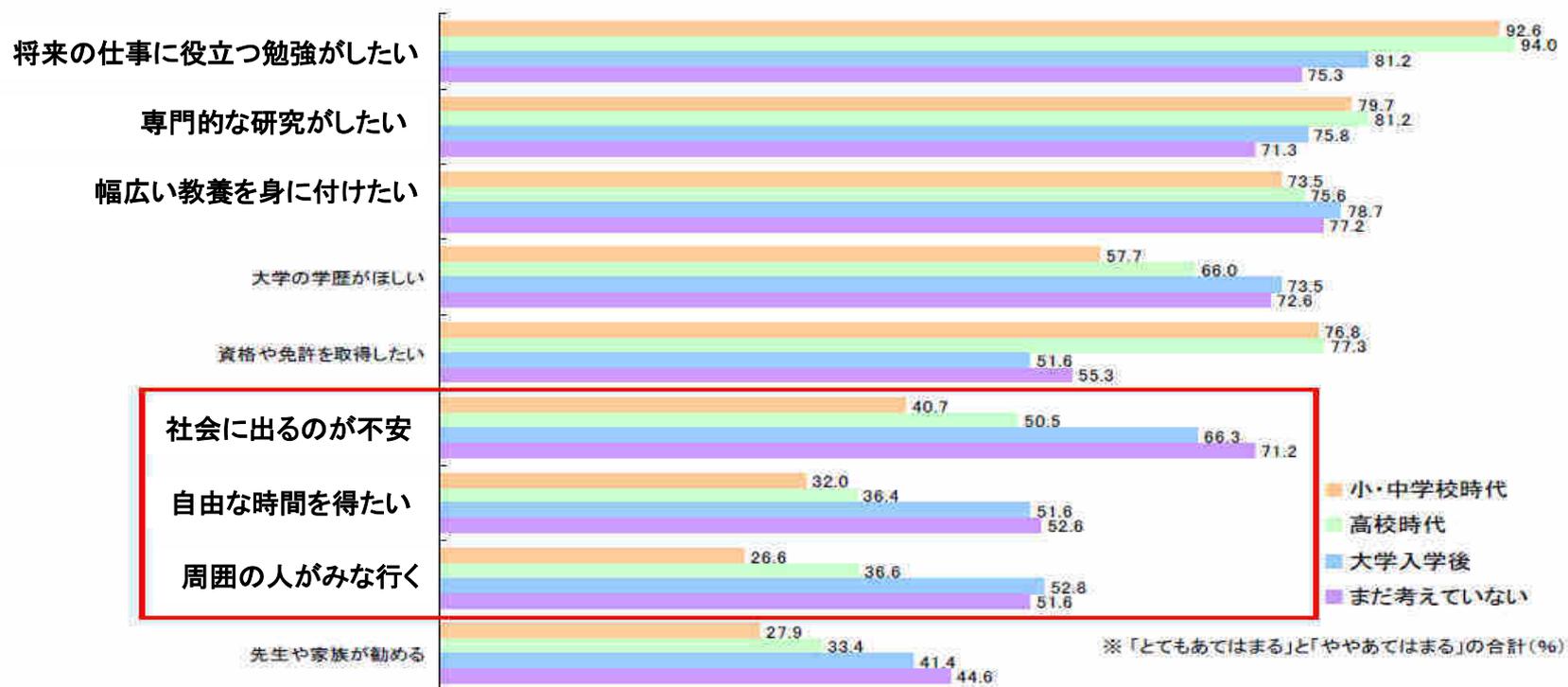


1-1 キャリア教育の草創期

(当時の) 大学生の進路に関する意識

大学への進学理由（職業を意識した時期別）

大学への進学を「すぐに社会に出るのが不安だから」「自由な時間を得たいから」「周囲の人がみな行くから」と消極的に考えている者が、職業を意識した時期が遅いほど顕著な傾向



(出典) Benesse教育研究開発センター「平成17年度 経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査 -大学生を対象として-

1-1 キャリア教育の草創期

- 「勤労観・職業観の醸成」の象徴として中学校を中心に5日間の職場体験活動を推奨し「キャリア・スタート・ウィーク」事業を展開
- 兵庫県の「トライやる・ウィーク」を参考に滋賀県、富山県などが全県5日間の職場体験活動を実施

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
公立中学校	94.5	97.1	96.9	98.0	98.6	98.4	98.3	98.1	98.6	97.7	97.9
公立高等学校 (全日制+定時制)	71.1	74.5	77.2	79.8	80.8	79.3	81.8	83.7	84.8	87.6	85.0

(資料：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの資料を基に作成)

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度調査は実施していない。

※ 令和3年度の調査においては新型コロナウイルスの感染症による影響及び回答者への負担軽減の観点から、調査の大幅な見直しを行った。
具体的には令和元年度まで実施していた「中学校職場体験」に係る調査については「令和4年度全国学力・学習状況調査資料」を活用し、「高等学校インターンシップ」については、調査項目を精選。また、各所管課等において把握している範囲で回答を依頼。

1－2 平成28年中央教育審議会 キャリア教育の課題

- 職場体験活動やインターンシップをすることがキャリア教育になっていないか
- 勤労観・職業観の醸成は小学校段階では尚早と考えられていないか
- 「夢を持とう」「仕事を調べよう」が固定的なキャリア教育の授業になっていないか
- 「キャリア教育≡進路指導」から「進路（進学／就職）」という狭義な部分のみを捉え従前の指導を続けていないか
- 学校の教育活動全体で行うとされてきたことが、逆に指導場면을曖昧にしたのではないか

2 平成29年・30年告示学習指導要領におけるキャリア教育

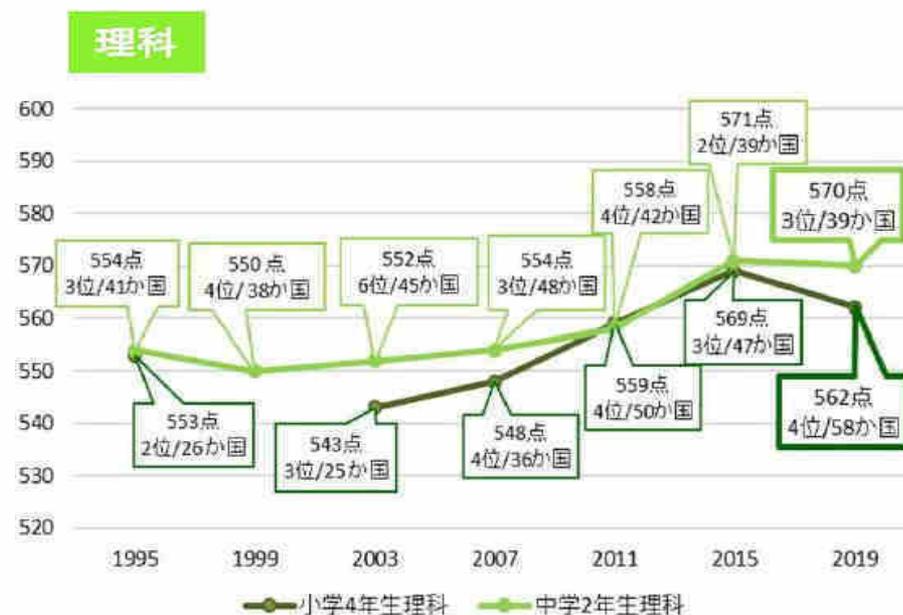
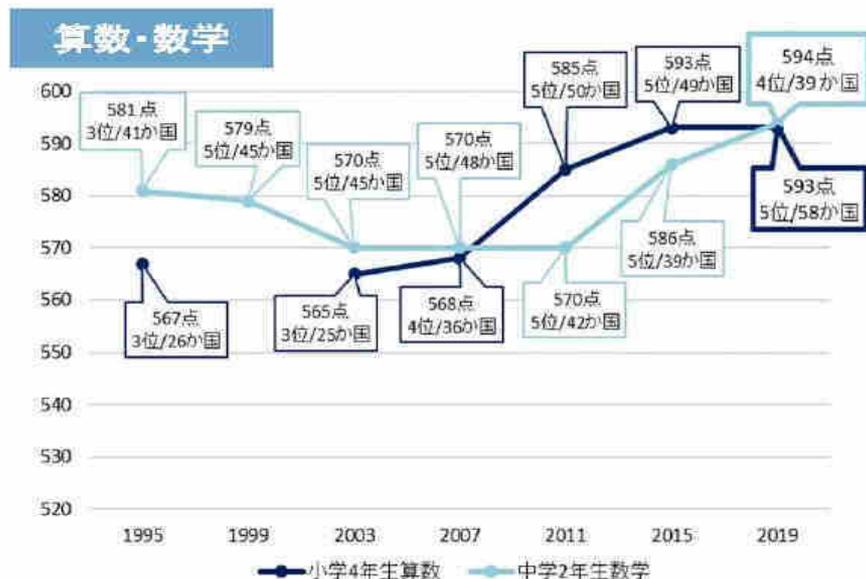
学習指導要領総則に示されたキャリア教育の充実

(以下は中学校、基本は小学校、高等学校も同じ)

(児童) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科（・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

2-1 実践のポイント“学ぶことと自己の将来をつなぐ”

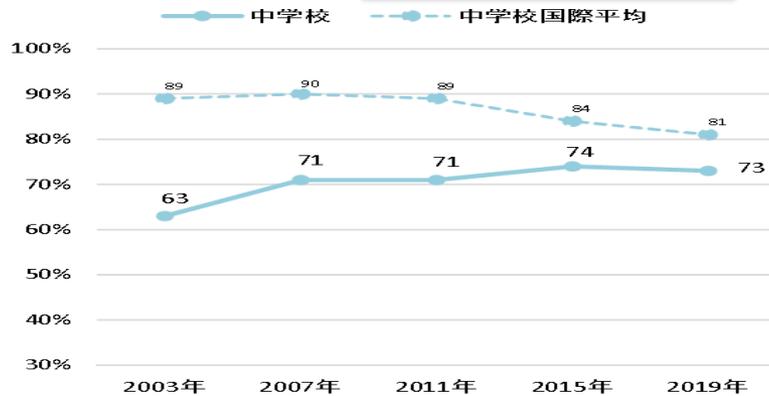
国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2019）から



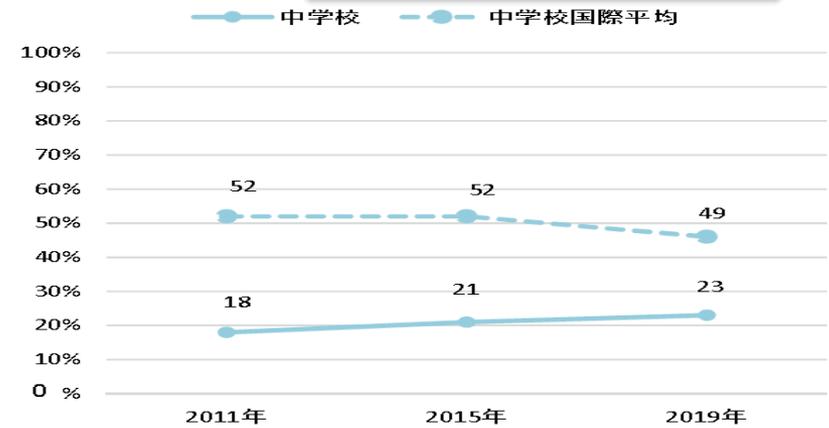
2-1 実践のポイント“学ぶことと自己の将来をつなぐ”

国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2019）から

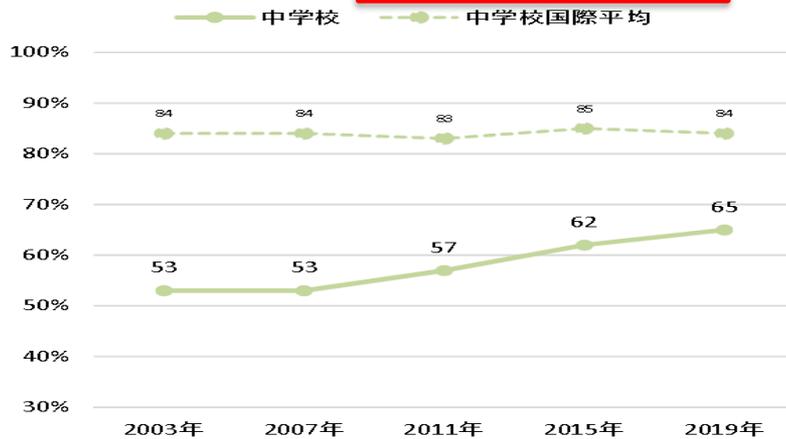
数学を勉強すると、日常生活に役立つ



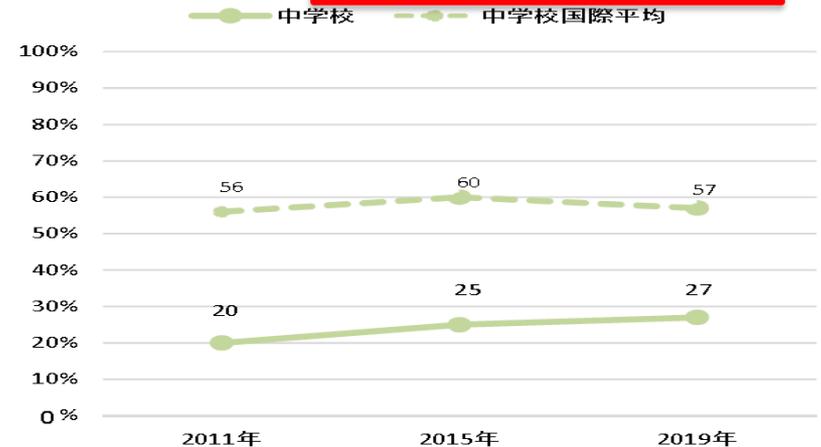
数学を使うことが含まれる職業につきたい



理科を勉強すると、日常生活に役立つ

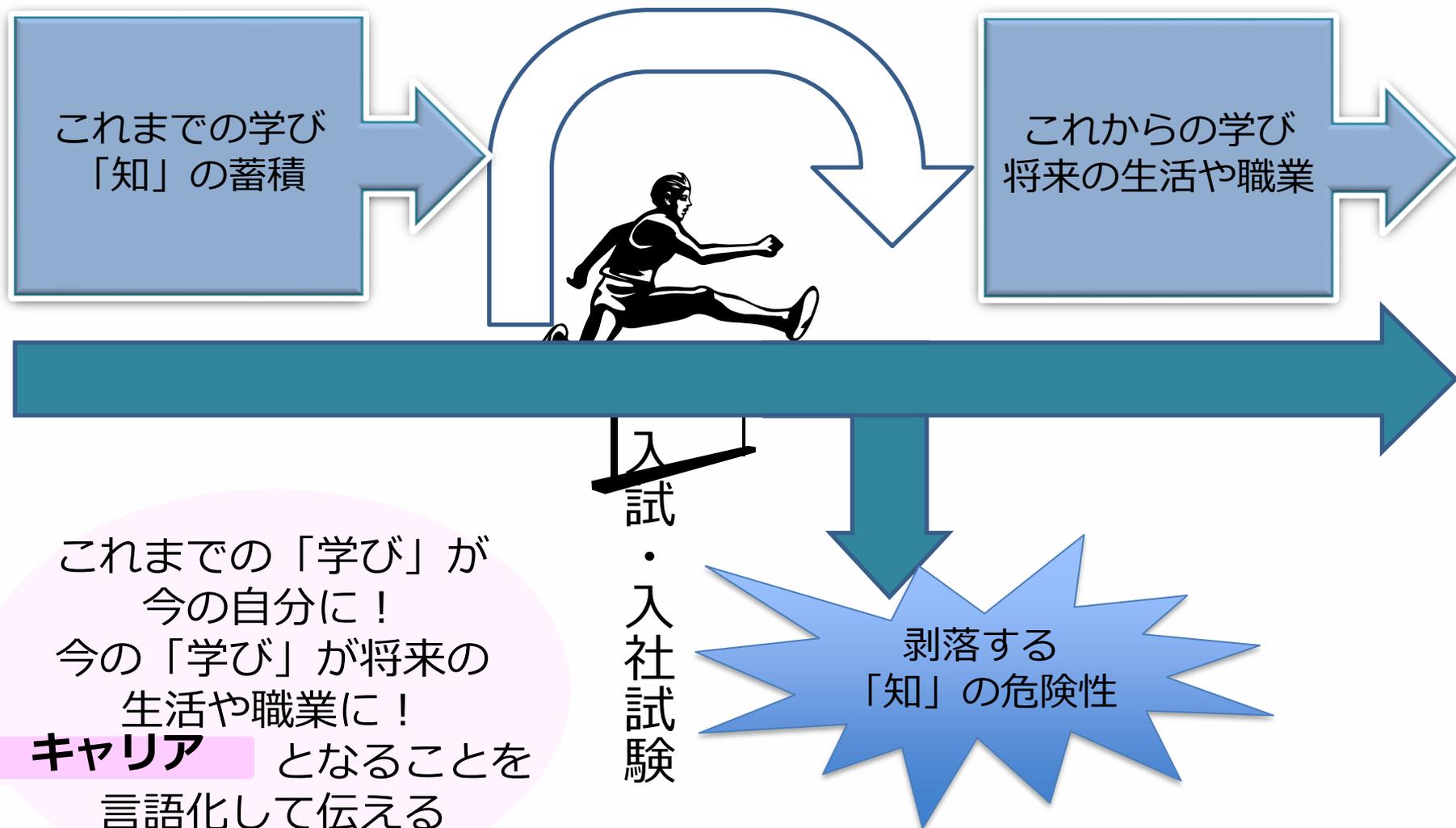


理科を使うことが含まれる職業につきたい



2-1 実践のポイント“学ぶことと自己の将来をつなぐ”

学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す



2 平成29年・30年告示学習指導要領におけるキャリア教育

学習指導要領総則に示されたキャリア教育の充実

(以下は中学校、基本は小学校、高等学校も同じ)

(児童) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科（・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

2-2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

資質・能力の三本柱

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

学びに向かう力
人間性等

「確かな学力」「健やかな体」「豊
かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

2 - 2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

平成23年中央教育審議会

「基礎的・汎用的能力」

「人間関係形成・社会形成能力」

は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

「課題対応能力」は、

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

2-2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

○平成23年中央教育審議会 「基礎的・汎用的能力」

これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。（中略）各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。

○平成28年中央教育審議会 「資質・能力」

こうした枠組みを踏まえ、教育課程全体を通じてどのような資質・能力の育成を目指すのかは、各学校の学校教育目標等として具体化されることになる。（中略）各学校が子供の姿や地域の実状を踏まえて、何をどのように重視するかなどの観点から明確化していくことが重要である。

2-2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

大田区立矢口東小学校のキャリア教育目標

	 気づく力	 伝える力	 チャレンジする力	 つなげる力
特別支援	自分のやるべきことに 気づくことができる	自分の気持ちや考えを 伝えることができる	苦手なことにも 取り組むことができる	自分の周りの人たちのことを もっと知りたいと思う
低学年	ともだちのよさに 気づくことができる	じぶんの おもいを つたえることができる	はじめてのことも やってみようと する	じぶんの まわりの ひとたちの ことを もっとしりたいと おもう
中学年	自分らしさに気づくことが できる	自分の考えを分かりやすく 伝えることができる	始めたことが最後まで やり通すことができる	自分の役割を果たすことが できる
高学年	自分らしさや相手らしさに 気づくことができる	場に応じた伝え方ができる	どんなことでも前向きに チャレンジすることが できる	人・もの・ことのために 行動することができる

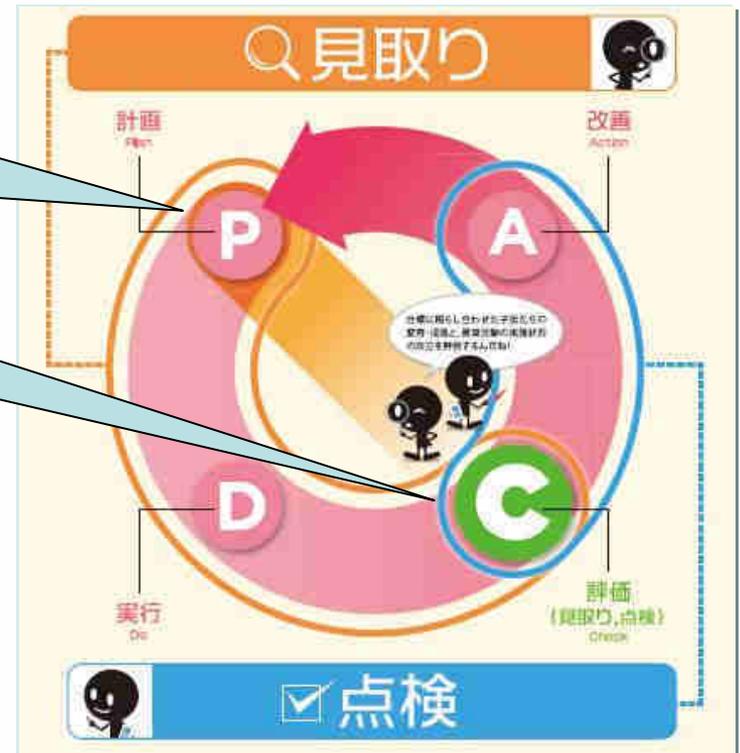
2-2 実践のポイント“資質・能力を身に付ける”

資質・能力設定のポイント

あなたは、
ともだちの よさに
きづくことができる？

ポイントは2つ

- ①主語を付け（変え）
- ②語尾を^ひ上げれば
そのまま質問になるか



(ダブルミーニング・ダブルバーレル)

〇〇をもち、〇〇が理解でき、仲間と協働しながら、〇〇
するとともに、〇〇ができる。

2 平成29年・30年告示学習指導要領におけるキャリア教育

学習指導要領総則に示されたキャリア教育の充実

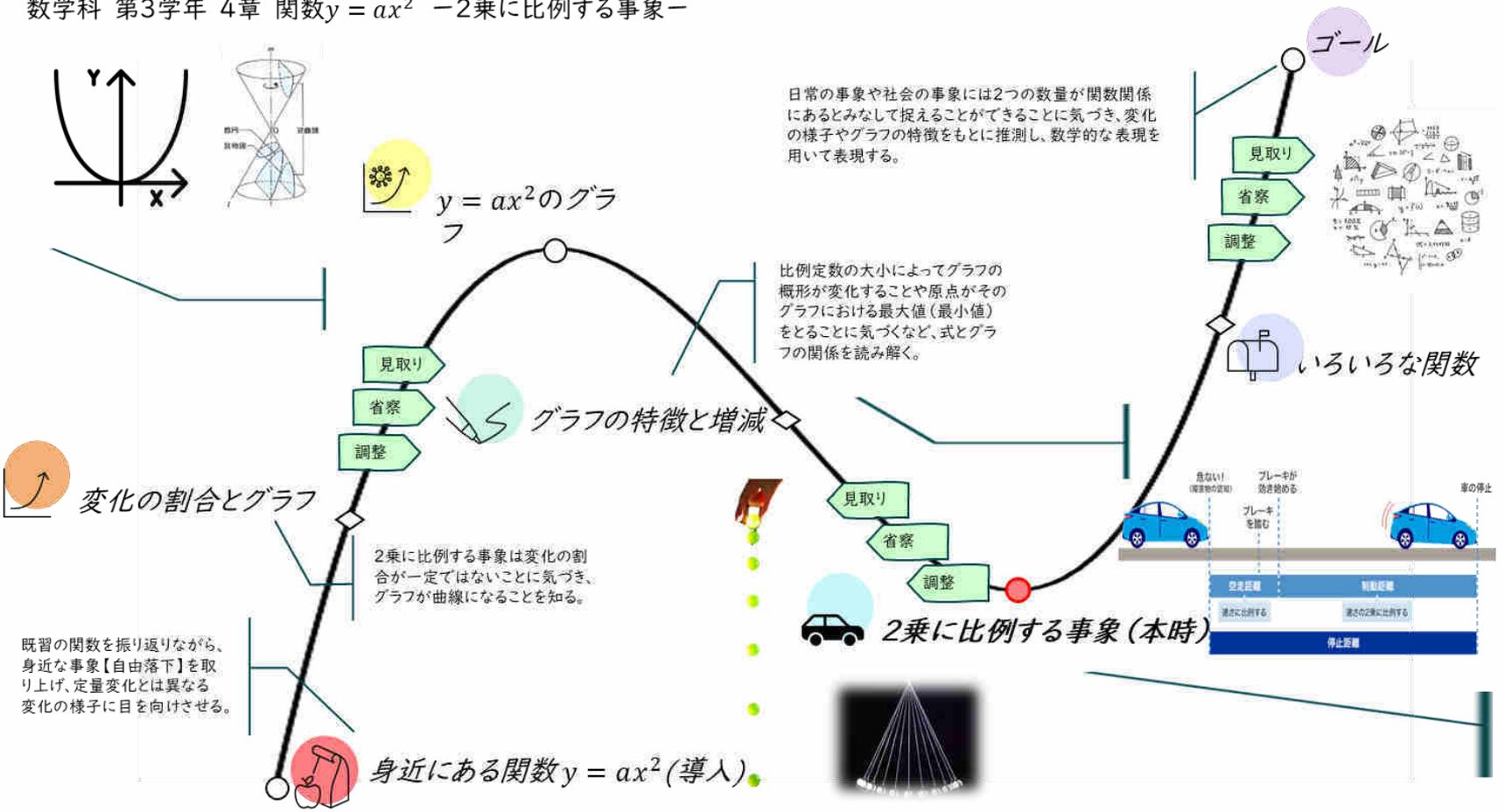
(以下は中学校、基本は小学校、高等学校も同じ)

(児童)生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科（・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

2-3 実践のポイント“各教科等の特質に応じる”

福井市至民中学校 学びのストーリーをデザインする

数学科 第3学年 4章 関数 $y = ax^2$ -2乗に比例する事象-



2 - 3 実践のポイント“各教科等の特質に応じる”

福井市至民中学校 学びのストーリーをデザインする

自然現象と自然災害はどのように違うのか

自然現象と自然災害の違いについて様々な事例から違いを見いだす。

マグマのねばりけの違いにより、どのようなことが起こるのか

マグマの粘性による山体の違いや起きる現象の違いについて考え、理解する。

火山灰による災害はどのように引き起こされるのだろうか(本時)

火山灰の特徴を観察から見出し、災害との関係について根拠を示して表現する。

火成岩にはどのような特徴があるか

火成岩の観察から特徴を調べ、色やつくりの違いをマグマの粘性と関連付けて表現する。

見取り 省察 修正

火山による自然災害を探る!(火をふく大地)

火山による恩恵にはどのようなものがあるのか

身のまわりにある火山による恩恵を考えたり、調べたりして発表する。

地震に備えるためには

地震によって引き起こされる様々な現象を知り、住んでいる地域での被害を想定し、どのような備えが必要かを考え、発表する。

地震が起きる場所はどこか

震源の分布から、地震の起きる場所・メカニズムに目を向け、特徴を理解する。

緊急地震速報の仕組みに迫る

地震の記録や映像から、揺れ方とそれを伝える波の関係について考え、理解し、緊急地震速報の仕組みを表現する

見取り 省察 修正

地震から身を守る方法を探る!(動き続ける大地)

見取り 省察 修正

地層はどのようにできるのか
地層がどのようにしてできるかを、モデル実験の結果から考察する。

堆積岩にはどのような特徴があるか
堆積岩の観察を通して、それらのつくりや特徴をまとめる。

地層や化石からどのようなことがわかるか
地層や化石から分かることを学び、地層が堆積した当時のようすを思考し、表現する。

見取り 省察 修正

地層から過去の自然現象・災害を読み解く!(地層から読みとる大地の変化)

単元後の生徒の姿・振り返り

火山や地震、地層に関する様々な自然現象の特徴や性質を正確に理解することが、自然災害から自らの身を守ることに繋がるといったことが分かった。また、自然現象は時に災害を引き起こすが、私たちに様々な恩恵も与えてくれており、自然と上手に付き合っていくことが大切だと感じた。

自分事

必然性

ゴール

至民校区ではどのような自然現象・災害が起こってきたか

至民校区の地形図やボーリング調査のデータから校区の地形・地層の成り立ちを考え、どのような自然現象や災害が起こってきたかを思考し、発表する。

2 - 3 実践のポイント“各教科等の特質に応じる”

令和5年型キーコンピテンシー

(5つの資質・能力 ○○できる)

1 思考力・判断力

状況に応じて思考・判断することができる

2 表現力

自分の思いや考えを表現することができる

3 コミュニケーション力

よりよい人間関係を調整することができる

4 協働力

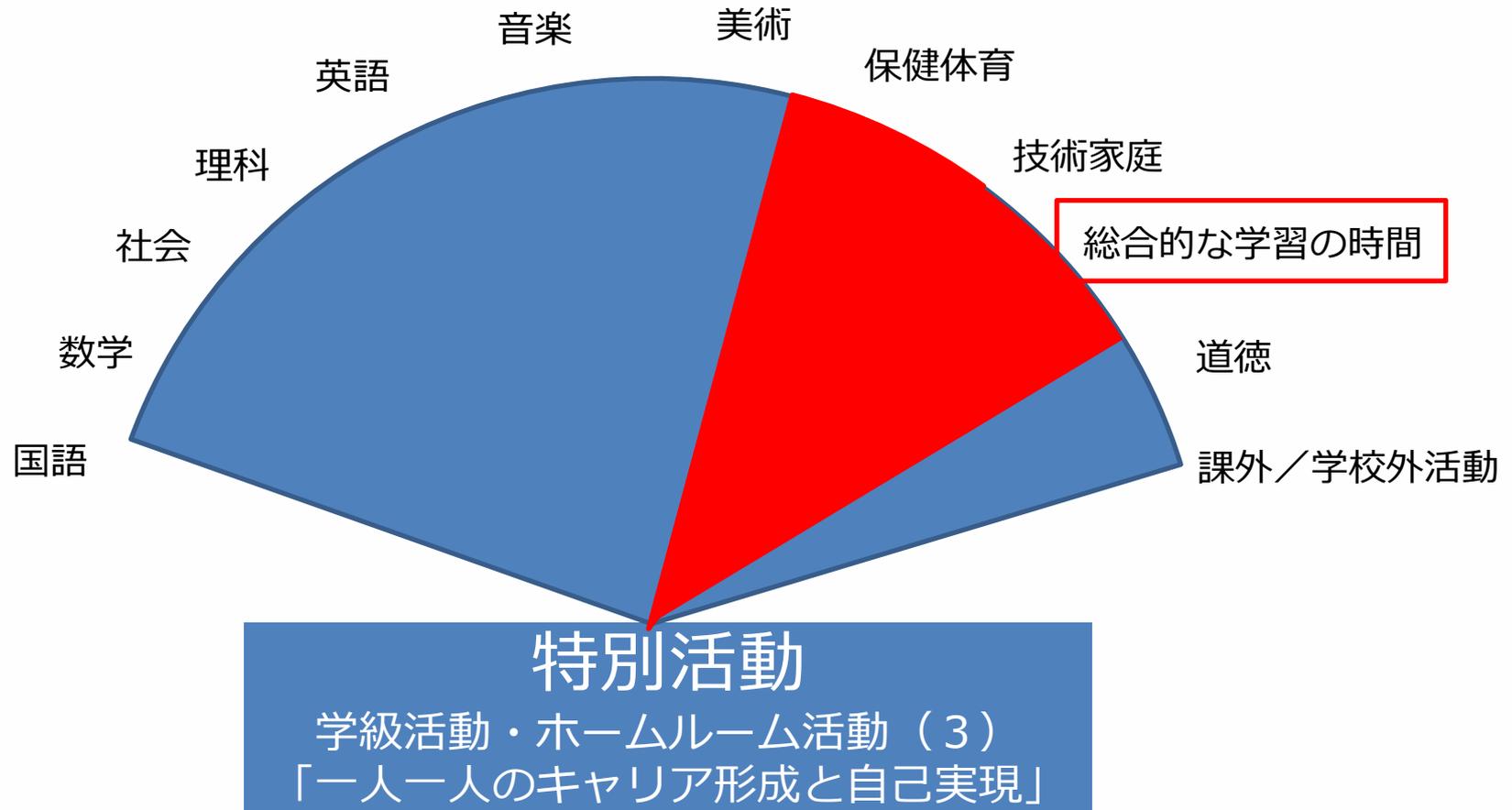
仲間と共に高みを目指すことができる

5 実践力

見通しをもって、自ら行動し、振り返ることができる

2-3 実践のポイント“特別活動を要にする”

要は特別活動「一人一人のキャリア形成と自己実現」



2 平成29年・30年告示学習指導要領におけるキャリア教育

学習指導要領総則に示されたキャリア教育の充実

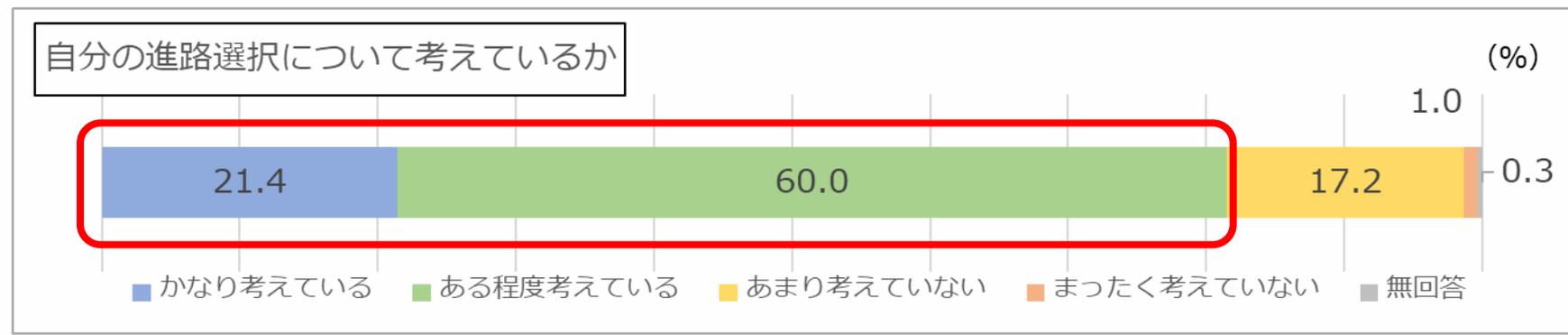
(以下は中学校、基本は小学校、高等学校も同じ)

(児童)生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科（・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

高校生の進路への意識

- 高校生の81%が、高校2年生の段階で進路について「考えている」。
- 高校生が進路を考えたときの気持ちは、「楽しい」が26%、「不安」が70%。



出典) 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2021年)

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

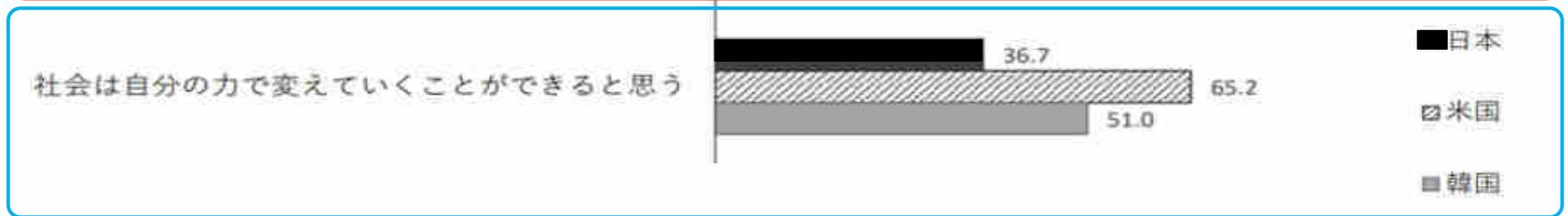
中学生・高校生の進路への意識

自分の将来の生き方や進路について考えるため、学級・ホームルーム活動の時間などで、どのようなことを指導してほしかったですか【生徒調査】（全21項目中、上位4項目を抜粋）

選択項目		中学	高校
	自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習	37.6%	33.5%
	社会人・職業人としての常識やマナー		22.9%
	就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応	25.5%	19.7%
	卒業後の進路(進学や就職)選択の考え方や方法	26.0%	
	上級学校や企業への合格・採用の可能性	24.7%	
	特に指導してほしかったことはない		25.4%

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

高校生の自己肯定感、社会参画意識



2 - 4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”



- 社会参画意識、自己肯定感醸成の必要性
- 今日の厳しい状況の中でも、活力ある社会の構築に奮闘する人との出会いの重要性

「こんな仕事や役割があるんだな、こんなすごい人がいる地域なんだ」「この人がこんなに精力を傾けるだけの価値がある地域なんだ」の発見をしてほしい。「私も将来、こうしてこの故郷に貢献できたらいいな」という芽を持たせるために、ぜひともかっこいい姿ではなく、一生懸命な大人の姿を観てほしい。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
公立中学校	94.5	97.1	96.9	98.0	98.6	98.4	98.3	98.1	98.6	97.7	97.9		<u>28.5</u>
公立高等学校 (全日制+定時制)	71.1	74.5	77.2	79.8	80.8	79.3	81.8	83.7	84.8	87.6	85.0		<u>52.9</u>

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度調査は実施していない。

(資料：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの資料を基に作成)

※ 令和3年度の調査においては新型コロナウイルスの感染症による影響及び回答者への負担軽減の観点から、調査の大幅な見直しを行った。具体的には令和元年度まで実施していた「中学校職場体験」に係る調査については「令和4年度全国学力・学習状況調査資料」を活用し、「高等学校インターンシップ」については、調査項目を精選。また、各所管課等において把握している範囲で回答を依頼。

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

あきたでドリーム（「キャリア・パスポート」）

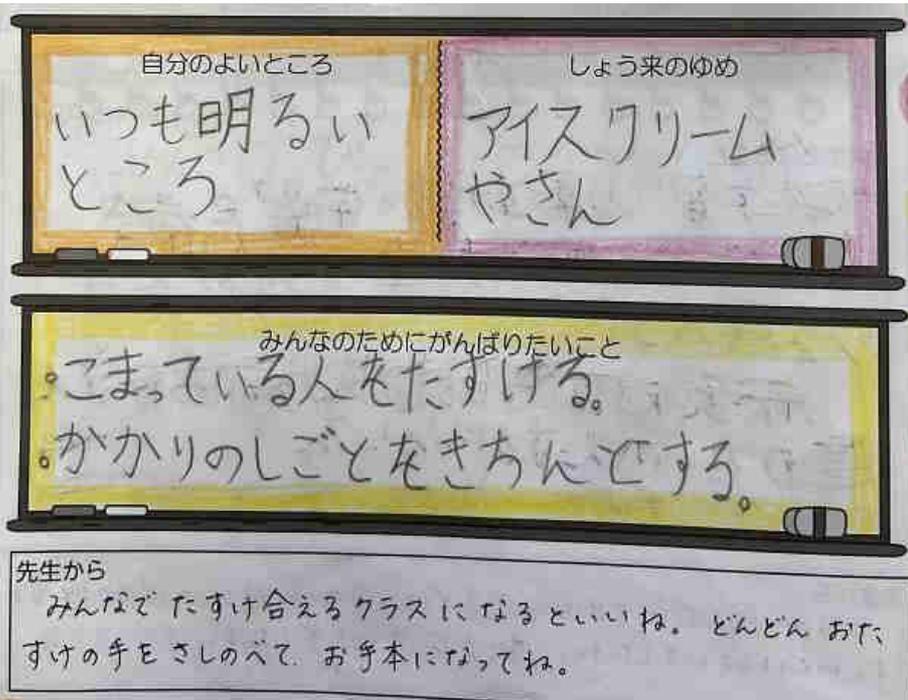


小1のわたし

しょうらいのゆめ おはなやさん。	がっこうのすきなところ コンピューターしつ がすき。
みんなのために がんばりたいこと なっている人をたすけてあげる。	
せんせいから なっている人を たすけるなんて えらいね。	

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

あきたでドリーム（「キャリア・パスポート」）



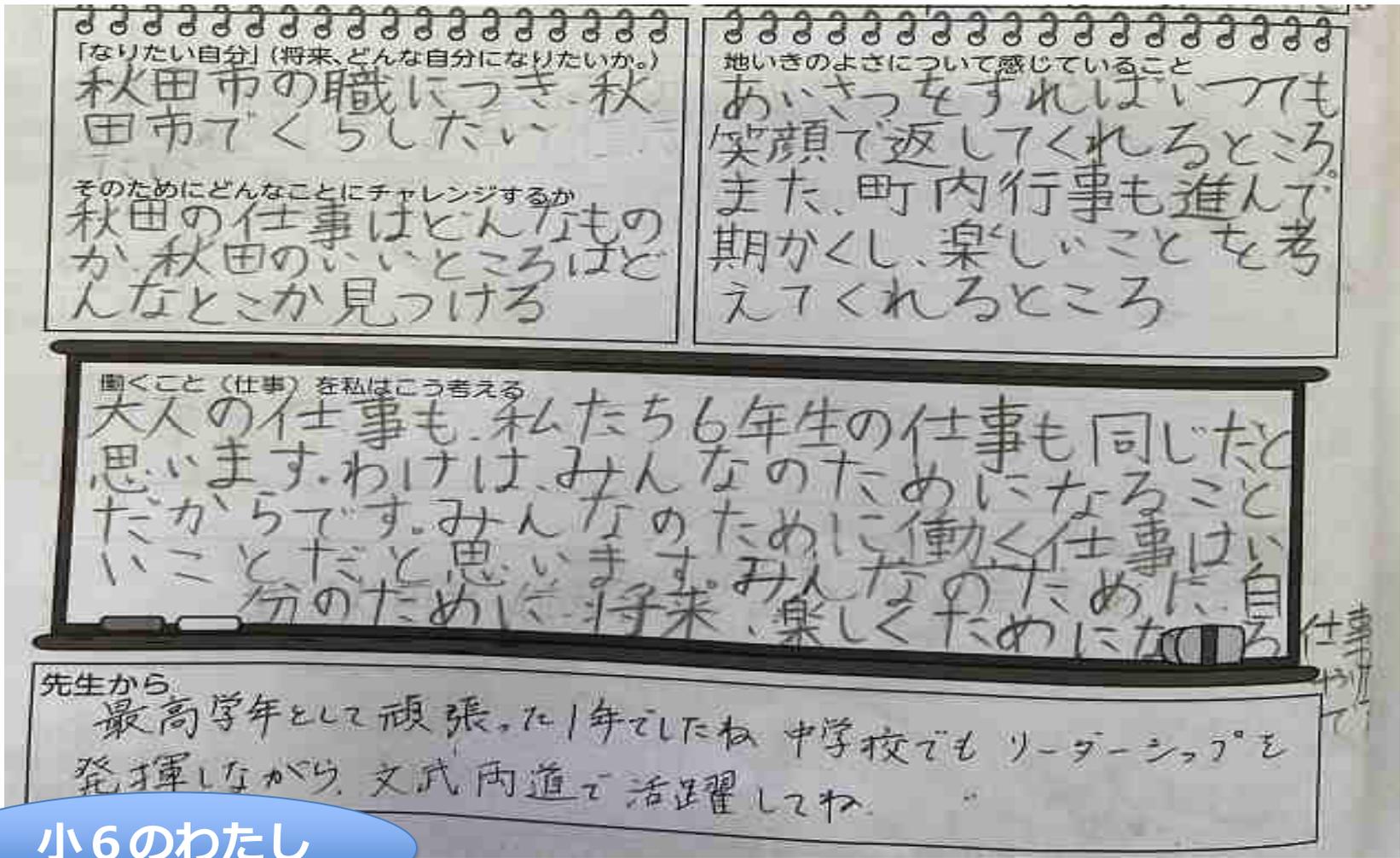
小4のわたし

小3のわたし



2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

あきたでドリーム（「キャリア・パスポート」）



小6のわたし

2-4 実践のポイント“生き方を考え主体的に進路を選択する”

自分のよさや可能性、学びのつながりを実感

4月7日
将来、私はこんな自分になりたい！
臨床心理師になって、一人で悩んでいる子ども達を言葉で救って、
笑顔になってもらう。

中3の最終目標

しょうらいのゆめ
おはなさん。

がっこうのすきなところ
コンピューターしゅ
がすき。

みんなのために がんばりたいこと
悩んでいる人をたすけてあげる。

せんせいから
なっている人を たすけるなんて えらいね。

小1のわたし



3 第4期教育振興基本計画におけるキャリア教育

○キャリア教育の充実

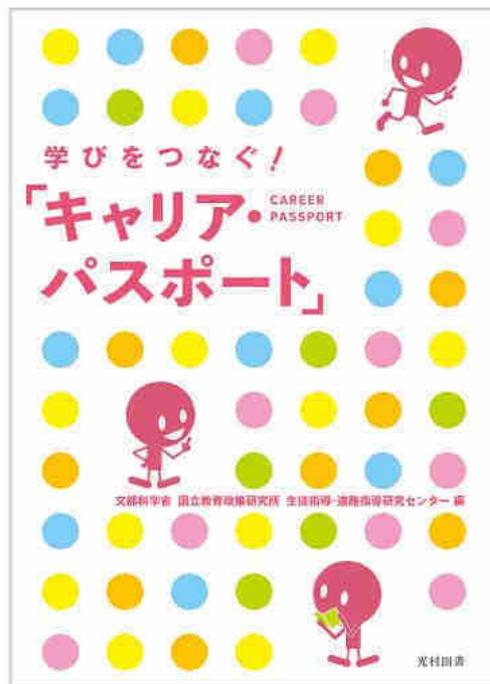
幼児教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。初等中等教育段階においては「キャリア・パスポート」等を活用し、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する取組を通じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくキャリア発達を促進する。



(参考)



文部科学省
キャリア教育の手引き
(平成29年・30年告示学習指導要領準拠)



国立教育政策研究所
学びをつなぐ！
「キャリア・パスポート」